道徳2　いじめを止（と）める勇気を育てる「道徳」の授業（中学校）

1　主題名　　「いじめ」で自分ができること

2　主題設定の理由

(1)　生徒の実態

いじめがいけないことであり、なくさなければならないということは、多くの生徒が知っている。しかし、実際にいじめられた体験がないため、頭では理解していても、そのつらさや傷の深さに共感しきれず、自分のこととしてとらえることができない生徒も多い。それゆえ、自分の周りに存在するいじめに対して無関心でいたり、消極的なかかわりにとどまってしまい、結果的にいじめを見逃したり、黙認してしまっている場合も少なくない。

また、「いじめを止めたい」と思っている生徒の中には、いじめを止める勇気を出せず、そんな自分に情けなさを感じている者もいる。さらに、「いじめられている人の力になりたい」と思っていても、具体的に何をしたらいいのかわからず、行動に移せないままでいる者もいる。

(2)　育てたい道徳的価値

いじめられた者の体験や気持ちを学ぶことで、いじめは、いじめられた者はもちろん、いじめた者も、それを見ていた者も、人間不信や自己否定感などの大きな傷を残すことであり、絶対許してはいけないことを理解させたい。

また、「いじめを止めるにはどうしたらいいのか」「いじめられている人はどんな援助を待っているか」を学ぶことで、「いじめに直面したとき、自分は何ができるか」を考えさせ、行動しようとする意欲と意志を育てたい。

3　資料と指導のポイント

資料A「終電車の出来事」は、東京都のある中学教師の体験を聞き、文章にしたものである。大人は、「いじめを見て見ぬふりをしない。止める勇気を持とう」と子どもたちに言うが、当事者にとっては、それがいかに難しいことかを、教師もわがこととして知っておかなければ、子どもたちの気持ちに寄り添った指導は難しい。大人が子どもと同じ目線に立って、どうすれば正しいことを貫けるかを一緒に考えながら、仲間を信頼し、勇気を持って行動する力を育てていきたい。

4　展開例（資料Aを使って）

時間	活　　動	留　意　点
導入の活動 10分	1　本時のめあての確認と準備 いじめを止めたいと思っている人は多いが、行動に移すことは難しい。どうすれば行動に移せるか、また、いじめられている人の力になれることはないか。考えてみよう。 2　いじめを止めることについて考える。 ○いじめを見たとき、止められるか、止められないのはなぜかを考える。	○止めたいと思っている者が多いこと、しかし実行は難しいことを確認する。
中心の活動 30分	○止められなかった時の、いじめられた人、止められなかった人の心理を考える。 ○どうしたら、いじめを止めることができるか話し合う。 ○資料Aの前半部分を読む。 ・自分なら、どういう条件があれば女性を助けられるかを考える。 ○資料Aの後半部分を読み、資料から感じたことや学んだことを書く。	○どちらも、自己否定と人間不信の気持ちを強めてしまうこと、そのことは、将来の生き方にもマイナスの影響を与えることを伝える。 ○班で話し合わせる。 ○前半部と後半部を、別のプリントに印刷し、前半部について十分考えさせてから、後半部に入る。 ○リーダーであるおばさん、フォロアーである乗客の、互いの役割と信頼関係を理解させる。 ○「いじめを止めたい」という気持ちは、多数派であることを確認する。
まとめの活動 10分	3　自分にできることを考える。 ○授業をふりかえって自分にできることを考えて書く。	○生徒の感想文や意見は、教師の一言を入れて後日返す。また、「いじめられている人に対してできること」をまとめ、生徒に伝える。

資料A

私は、都内で20年近く中学教師をやっています。ある日、仕事で遅くなった私は、終電車で自宅へ帰りました。その終電車の中で起こったある出来事をお話ししましょう。

車両は、８割ほど席が埋まっていました。いつもの風景です。ただ、いつもと違っていたのは、その車両の隅で、若い女性が、20歳くらいの若い男三人にからまれていたのです。

「姉ちゃん。かわいい顔してるねぇ。どこ行くの？」「俺たちにつき合えよ」など、酔っぱらっているのか、男たちは図々しく女性に話しかけ、体を触ろうとしていました。

明らかに女性は嫌がっており、小さな声で、「やめてください」と拒否していましたし、そこから逃げ出そうとしていますが、一人の男が女性の手首をつかんで離そうとしません。女性は助けを求めるかのように、おびえた目で車内を見回すのですが、誰一人立ち上がる気配はありませんでした。

私は、「助けなければ」と思いましたし、「勇気を出せ」と自分に言い聞かせてはみるものの、怖くて立ち上がれないまま、下を向いていました。「俺はいつも生徒に、“正しいと思ったことは、たとえ周りがどうであろうと貫け”と、偉そうに言っているが、いざ自分のこととなるとできないじゃないか。これじゃあ教師失格だぞ。さあ、立て！」と自分自身に言い聞かせるのですが、「逆に自分がやられたらどうしよう」という恐怖感の方が勝り、立ち上がることができないのです。

情けない思いを抱えながらそっと周りを見渡すと、みんな黙って下を向いています。新聞を読んでいるふりをしたり、寝たふりをしている人もいました。男たちはかなり大きな声を出していましたから、この出来事に気づかないはずはないのですが。「みんな俺と同じだな」と、がっかりしながら、「結局“さわらぬ神にたたりなし”の心境なんだろうな」と自分にも、周りの人たちにも失望したまま、黙って下を向いていました。「次の駅で降りてしまおう」などと思いながら。

その時です。となりのおばさんが、私の脇腹をひじで突っつきました。そして「ねぇ、あれ、どう思います？」と小声で私に話しかけてくるのです。「いやぁ、よくないね。何とかしてやりたいんだけど……」そう言う私に、「じゃあ、私が言いますから、隣の人にも言って私を応援して下さい」とささやきます。私はすぐに、寝たふりをしている隣の中年のおじさんに、「すいません。あれ、どう思います？」と話しかけました。おじさんも私と同じ気持ちでいたらしく、「困ったもんだねぇ」。そこで私はおばさんの話を伝えました。そのおじさんも、同じように隣の人へ伝えます。隣の人はまた隣の人へ……。

何人かの人たちにその話が伝わった頃、それを確かめたおばさんは、目で合図を送りながら立ち上がりました。女性の方へ歩いていき、「ちょっとあなたたちやめなさいよ。いやがってるじゃない。こっちへいらっしゃい」と女性の手を引いて自分の座席の方へ歩みだしました。男たちは一瞬あっけにとられていましたが、案の定「なんだぁ、このクソババア」とからんできました。

私は、「ここだ」と思い、勇気を持って立ち上がり「おい、やめろ！」と強い口調で怒鳴りました。隣のおじさんも、「そうだ、やめろよ」と立ち上がります。驚いたことに、私たち二人が立ち上がると、あちらこちらから立ち上がる人が次々に出てきて、異口同音に「やめろ」と言い始めたのです。若い人も年輩の人もいました。中には仲間と連れだって、おばさんを助けようと歩みだす人たちもいましたし、車両の隅で、「や、やめろ」とつぶやくような小声でささやく人もいました。とにかくあっという間に車内全体が、「乱暴は許さないぞ」という雰囲気に包まれたのです。

女性にからんでいた３人の男たちは、その、雰囲気の突然の変化に、明らかに動揺していました。そして、「まずい」と思ったのでしょう、「うるせぇ。なんだばかやろう」という捨てぜりふを残して、隣の車両へ移っていったのです。

女性は、「ありがとうございました」と、おばさんに何度も何度も頭を下げます。私はうれしくて、思わず隣のおじさんと握手をしました。おじさんも、にこにこ笑って「よかった、よかった」とうれしそうでした。

おばさんの勇気と、それを支えた同じ車両の名も知らぬ人たちのすばらしさ、そしてその一人であれた自分への誇らしさで、私は幸せな気持ちを抱えて家路につきました。

5　その他の資料と指導のポイント

いじめを扱った『凍った叫び』（ここでは省略）は、いじめに関して多様な視点から迫れる効果的な資料である。1996年２月に、　　で連載された全部で９話の「いじめ体験者」のレポートで、（　　から『凍った叫び』として出版されている）“いじめられた体験”が中心になっているが、内容ごとに次のような特色がある。

① 手首の傷……突如始まったいじめの恐怖と、そこで受けた心の傷の深さ
② 孤立無援……ストレス解消としてのいじめと、学校や同級生への不信感
③ 不登校宣言……学校への不信感と、親や周囲の援助
④ 親子漂流……いじめられた子を持つ親の気持ち
⑤ カナリア……いじめによる不登校に対する学校側の対応の問題点
⑥ 見つけた光……いじめの一つの克服の形と、傷ついた子に周りができること
⑦ 別の中で……障害者へのいじめの実態
⑧ 傷跡深く……いじめで受けた心の傷の深さ
⑨ 埋まらぬ溝……いじめた側の親の苦悩

“いじめられた側”の絶望的な気持ちに思いをよせさせたり、いじめの陰湿さ・いじめが非人間的な行為であることを学ばせたいときは、①や②・⑦を利用し、いじめが持つ傷の深さを学ばせたいときは⑧を利用する。いじめはたくさんの人を苦しめることを伝え、いじめの重大さをわからせたいときは、④や⑨を利用するなど、学ばせたいテーマに応じて、資料を抜き出し、活用してもいいだろう。また、特にテーマを決めず、“いじめ全体”を考えさせたいときは、全編を読ませて、感想を書かせ、それをもとにクラスみんなで考え合うという形を取ってもいい。その際、次のような考える項目をあらかじめ明示して、そのテーマに添って自分の考えや意見をまとめさせると、より効果的であろう。

・ いじめられた人の体験を読んで、感じたことを書いてみよう。
・ あなたがいじめられたA男（A子）だった場合、どんな気持ちか、またはどうするか。
・ いじめられたとき、周りの友達からどうされるとうれしいか。
・ いじめが悪いことだとわかっているのに、なぜ止められないか。
・ いじめが起こらないようにするためには、どうしたらいいだろうか。